

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

2019年度 全日本学生柔道優勝大会



令和元年度 中学校武道授業(剣道)指導法研究事業





男子決勝・副将戦＝東海大・太田（右）が大内刈を決める

男子

東海大が 4連覇達成

2019年度全日本学生柔道優勝大会（男子68回・女子28回、主催Ⅱ全日本学生柔道連盟・毎日新聞社、後援Ⅱ日本武道館ほか）は6月22日・23日に日本武道館で開催された。

大会には全国9地区を勝ち抜いたチームが集まり、大学日本一を賭けて熱戦が繰り広げられた。

男子は、東海大が決勝で筑波大を3―1で降^{くだ}した、4年連続24回目の優勝に輝いた。

また女子5人制でも、東海大が大会5連覇中の山梨学院大を3―0で破り、12年ぶり5回目の頂点に返り咲いた。

女子3人制では、明治国際医療大が東京女子体育大に2―0で勝利し、創部3年目にして初優勝を飾った。

男子 (62チーム出場)

3連覇中の東海大は、準決勝で日本体育大と対戦する。日本体育大は日本大、天理大を接戦で降して勢いに乗っていたが、ここは東海大が5-0で圧勝し、4連覇に向けて決勝に駒を進めた。

もう一方のブロックでは、グランドスラム・デュッセルドルフ100kg級金メダリストの飯田健太郎を擁する国士舘大が有力に見えた。しかし、国士舘大と筑波大による準決勝は、0-0で大將戦にもつれると、筑波大の田嶋が飯田に大外刈を決めて勝負あり。筑波大が2年連続の決勝進出を決め、昨年、代表戦の末に敗退した雪辱を目指す。

▽決勝

東海大	3-1	筑波大
先鋒 立川 新	引分	佐々木卓摩
次鋒 清水拓実	合技○	田嶋剛希
五将 村尾三四郎	引分	石川竜多
中堅 星野太駆	引分	横内晋介
三将 松村颯祐	反則負	上野翔平
副将 太田彪雅	○大内刈	千野根有我
大將 後藤龍真	○隅返	関根聖隆

先鋒戦は序盤から激しい組手争いが続く。筑波大・佐々木は寝技に持ち込んでポイントを狙うが、東海大・立川は上手く躲す。後半には立川が大内刈、背負投と得意技を出す。惜しくも決まらず。両者決め手を欠き、引き分ける。

次鋒戦は185cm・150kgの東海大・清水と、172cm・90kgの筑波大・田嶋による対決。身長で劣る田嶋は清水に対して下からしつかり釣手を掴む。

後半に入ると、田嶋は徹底した組手から、積極的に背負投や内股で攻めていく。開始3分半過ぎ、田嶋は清水の背中を持って大内刈を繰り出すと技有の判定。そのまま清水を縦四



決勝・次鋒戦＝筑波大・田嶋 (左) が大内刈から縦四方固で合技一本勝

方固で抑え込んで、田嶋が合技一本勝を収める。

五将戦、今年2月のグランドスラム・デュッセルドルフ90kg級で銅メダルを獲得した東海大・村尾は、1年生ながら果敢に前に出ていく。しかし筑波大主将の石川は、指導2を取られながらも村尾の激しい攻めを凌ぎ切り、引分に持ち込んだ。

中堅戦、東海大・星野が右組、筑波大・横内が左組のケンカ四つ。星野は足技を中心に攻め口を探るが、ポイントを奪えず引分。筑波大がリードを守る。

三将戦、東海大・松村は前に出て



決勝・三将戦＝東海大・松村 (右) は終始攻め続けた

圧を掛けていく。一方、松村の組手を嫌う筑波大・上野には指導1が入る。開始1分半過ぎ、松村が内股で攻めるも、組手不十分で決め切れない。松村の厳しい攻めに対し、防戦一方の上野に2つ目の指導が入る。なおも松村は上から釣手を掴んで上野を逃さず、上野に3つ目の指導が宣告され試合終了。東海大が同点に追いつく。

昨年、決勝戦で代表戦を制した東海大主将の太田が副将戦で登場。対する筑波大・千野根は1年生。太田は釣手、引手ともにしつかり掴んで、落ち着いて自分の組手をつく



準決勝①・大將戦＝東海大・太田 (上) が日本体育大・大吉に内股を決める

▶決勝・副将戦＝東海大・太田（上）は
大内刈で優勝を大きく引き寄せた



◀決勝・大将戦＝東海大・後藤（左）対筑波大・関根

る。千野根は前に出られず指導1が与えられる。試合開始1分16秒、千野根が腰を引きながら後退すると、太田が逃さずに豪快な大内刈で一本。主将の一本で東海大が逆転し、会場は大きな歓声に包まれる。

大将戦はいきなり試合が動く。開始10秒、東海大・後藤が隅返で技有を奪い、主導権を握る。後がなくなつた筑波大・関根は強引に技を出す、後藤を捉えきれない。後藤は、指導2まで追い込まれるも関根の猛攻に耐え抜いて技有で勝利し、東海大の優勝を決めた。

東海大は今回で4年連続24回目の優勝となった。筑波大に先手を打たれながらも優勝を手繰り寄せた戦いぶりに、不断の努力によって培われた底力が感じられた。

◎優勝Ⅱ東海大・上水研一朗監督



「2015年に決勝で筑波に敗れて、7連覇で途絶えました。それから

目の前の一つ一つが勝負だと思つてやってきて、今回4連覇を達成することができました。練習ではシチ

ユエーショントレーニングも取り入れています。先にポイントを取られても、どう取り返すかを計算できるように話し合っています。過去には2点取られてから逆転して優勝したこともあったので、そういった「生きた教材」を取り上げて説明してきました。ミスがあった時にどう対処するかというリスクマネジメントを徹底させています」

◎優勝Ⅱ東海大主将・太田彪雅選手



「決勝は先に取られる展開でしたが、取られても後半で取り返せばいいとチーム内で確認していたので、みんなも焦らずにできたと思います。今年のチームは組手で翻弄されることがありましたが、そこを克服できるように練習してきました」



女子5人制

東海大が 12年ぶりの復活優勝



女子5人制決勝・先鋒戦＝東海大・富沢（左）が大外巻込で技有



準決勝①・次鋒戦＝東海大・竹内（左）が裏投を決める

■女子5人制（31チーム出場）

過去優勝4回の実績を誇るもの

の、2007年以来、優勝から遠のいている東海大は準々決勝で龍谷大を3―1で勝利すると、準決勝で環太平洋大と対戦する。東海大は次鋒・竹内が裏投で勝利すると、その1勝を守り切り、決勝に進んだ。

もう一方では昨年優勝の山梨学院大が、準決勝で国士舘大に4―0で貫禄の勝利を収めた。昨年、史上初となる5連覇を達成した山梨学院大は、さらなる高みを目指して決勝に臨む。

▽決勝

東海大	3―0	山梨学院大
先鋒 富沢佳奈○合技		淵田萌生
次鋒 竹内 鈴○小外掛		金知秀
中堅 エルビスマル ロドリゲス	引分	瀬戸口菜南
副将 立川 桃○小内刈		多田純菜
大将 児玉ひかる	引分	高橋瑠璃

先鋒戦は両者右組の相四つ。昨年の講道館杯57kg級で優勝した東海大・富沢は、体落を中心に仕掛けていく。試合中盤、富沢が組み際の大外巻込で技有を奪う。富沢は山梨学院大・淵田の体をしつかりコントロールして、そのまま横四方固で合技一本勝。東海大は貴重な先勝をあげる。

次鋒戦、韓国代表として今年のグランプリスラム・パリで3位入賞の山梨学院大・金は、追いつこうと積極的に技を出していく。しかし、東海大・竹内も先鋒戦の勝利に背中を押されたのか、中盤から徐々に前に出始める。試合開始3分7秒、竹内が金を場外際まで押し込んでいき、小

外掛を仕掛け、鮮やかに一本勝を収める。

中堅戦、勝負を決めたい東海大・ロドリゲスは、上背を活かして上から釣手を持ち、試合を有利に進める。対する山梨学院大・瀬戸口も終盤に大内刈でロドリゲスを押し込むが、ポイントにはならず。試合は引分に終わる。

副将戦は優勝に王手を掛けた東海大・立川と、一本勝が絶対条件となつた山梨学院大・多田の対戦。多田は再三内股を仕掛けるが、引手が不十分なためポイントには繋がらない。立川も内股で応戦し、多田を徐々に追い詰めていく。終盤、立川



決勝・先鋒戦＝東海大・富沢（上）は大外巻込から横四方固による合技一本勝でチームを勢いづけた



決勝・次鋒戦＝東海大・竹内（右）対山梨学院大・金

は内股で多田の体勢を崩すと、さすが小内刈に移って技有を奪う。そのまま立川は冷静に多田の猛攻を凌いで、東海大の優勝が決まった。

東海大・児玉と山梨学院大・高橋による大將戦は引き分け、3-0で東海大が12年ぶりの頂点に輝いた。

近年は、男子の活躍が目立っていた東海大。アテネ五輪78kg超級金メダリストでもある塚田真希監督は、男子に負けじと選手たちに発破を掛け続けたという。12年ぶりの栄冠に、東海大の女子選手たちは目を潤ませながら喜んでいった。

一方、敗れた山梨学院大は中堅の瀬戸口が3年生で、残り4名は1年



決勝・副将戦＝東海大・立川（左）の小内刈による技有が決勝点となった

生というチーム編成であった。来以降も優勝は射程圏内だろう。

◎優勝＝東海大・塚田真希監督

「男子が優勝を重ねてきて、それを見て女子が喜んでる状況があり、それは間違っていると思いました。あくまで応援はしますが、自分たちが何かを成し遂げた訳ではありません。男子が優勝して、悔しいと感じなさいと言いつけてきました。

今回は、優勝できて感無量です。苦しい練習に耐えて、そして優勝することまでできて、100点満点ですね」



◎優勝＝東海大・塚田真希監督

「男子が優勝を重ねてきて、それを見て女子が喜んでる状況があり、それは間違っていると思いました。あくまで応援はしますが、自分たちが何かを成し遂げた訳ではありません。男子が優勝して、悔しいと感じなさいと言いつけてきました。

マンガ・武道の偉人たち



マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体1,000円＋税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。

収録偉人一覧：嘉納治五郎（柔道）、高野佐三郎（剣道）、阿波研造（弓道）、双葉山（相撲）、船越義珍（空手道）、植芝盛平（合気道）、宗道臣（少林寺拳法）、園部秀雄と三田村千代（なぎなた）、鶴沢尚信（銃剣道）

ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索！



女子3人制

明治国際医療大が 創部3年目で初優勝

◀女子3人制決勝・中堅戦＝明治国際医療大・足達（上）は
大外巻込からの後袈裟固で合技一本勝を収めた

■女子3人制（32チーム出場）

創部3年目にして関西大会3連覇中の明治国際医療大は、初戦から準決勝まで1点も失点を許さずに、2年連続で決勝進出を決めた。

もう一方では東京女子体育大が、4連覇がかかる早稲田大を代表戦で降し、初の決勝に駒を進めた。

▽決勝

明治国際医療大 2-0 東京女子体育大

先鋒 西村美穂 引分 岩永ふくみ

中堅 足達実佳○合技 高橋純奈

大将 林美七海○小内刈 富田杏樹

先鋒戦は明治国際医療大・西村が左組、東京女子体育大・岩永が右組のケンカ四つ。開始から技の応酬が続くが、両者決め手を欠いて引分。

次鋒戦、明治国際医療大・足達が大外巻込の奥襟（おくもり）を持って自分の組手をつくる。試合開始1分半過ぎ、足達が大外巻込で技有を奪うと、そのまま後袈裟固に移行。足達は高橋を抑え込んで合技一本勝となる。足達の勝利で、明治国際医療大が優勝を大きく引き寄せる。

大将戦、後がない東京女子体育大・富田は序盤から怒涛（どとう）の攻めを見せる。対する明治国際医療大・林は富田の猛攻を冷静に躲（く）しつつ、足技で機会を窺（うかが）う。終盤、林が不十分な組手から強引に小内刈を仕掛けると、これが技有の判定。そのまま時間となり、明治国際医療大が初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ

明治国際医療大・小川豊清監督



「今大会では実力が拮抗しており、どのチームにも優勝する可能性がある」と思っていました。ですので、私たちを出し切ることができれば優勝できると信じていました」

【大会結果】

■男子

◎優勝Ⅱ 東海大

○準優勝Ⅱ 筑波大

▽第3位Ⅱ 日本体育大

国士舘大

▽優秀選手Ⅱ 太田彪雅（東海大）、松村颯祐（東海大）、石川竜多（筑波大）、田嶋剛希（筑波大）、大吉賢（日本体育大）、山下魁輝（国士舘大）、岩田歩夢（山梨学院大）、中野寛太（天理大）、神鳥剛（明治大）、空辰乃輔（早稲田大）

■女子5人制

◎優勝Ⅱ 東海大

○準優勝Ⅱ 山梨学院大

▽第3位Ⅱ 環太平洋大

国士舘大

▽優秀選手Ⅱ 竹内鈴（東海大）、瀬戸口菜南（山梨学院大）、佐藤晴菜（国士舘大）、秋場麻優（環太平洋大）、坪根菜々子（福岡大）、奥本華月（帝京大）、出村花恋（龍谷大）、寺田宇多菜（桐蔭横浜大）

■女子3人制

◎優勝Ⅱ 明治国際医療大

○準優勝Ⅱ 東京女子体育大

▽第3位Ⅱ 創価大

早稲田大

▽優秀選手Ⅱ 足達実佳（明治国際医療大）、岩永ふくみ（東京女子体育大）、岡田蛭（早稲田大）、小山内茉緒（創価大）、大山美穂（名城大）、網内菜々子（九州共立大）、高橋麻莉弥（皇學館大）、山室未咲（慶應義塾大）

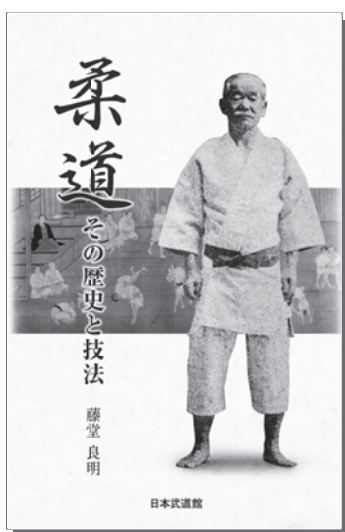


好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた[※]武道としての柔道。を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法</p> <p>体術の起こりと技法</p> <p>組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法</p> <p>講道館柔道の創設と技法</p> <p>嘉納治五郎の乱取開発</p> <p>講道館柔道の行事と整備</p> <p>警視庁武術大会の勝利と技法</p> <p>学校体操への柔道導入の試み</p> <p>学校における柔道普及の実態</p> <p>高専柔道の起こりと技法</p> <p>嘉納治五郎の他武道への接近</p> <p>精力善用国民体育の創案と技法</p> <p>全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法</p> <p>第二次大戦中の柔道界と技法</p> <p>第二次大戦後の柔道禁止と復活</p> <p>格技柔道から武道柔道へ</p> <p>女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法</p> <p>竹内流腰廻</p> <p>関口新心流柔術</p> <p>起倒流柔術</p> <p>起倒流柔道</p> <p>直信流柔道</p> <p>真之神道流柔術</p> <p>天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題</p> <p>柔道技法の変遷と特徴</p> <p>柔道の国際的普及と発展</p> <p>段位制度の国際比較</p> <p>柔道の国際化と課題</p> | |



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

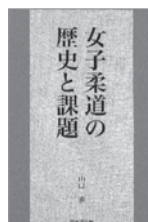


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

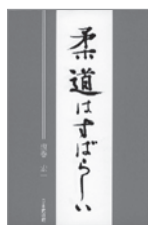


武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

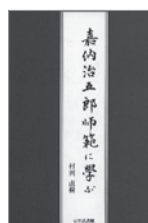


柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)

令和元年度中学校武道授業(剣道)指導法研究事業 指導ガイドラインを見直し、 新たなスタートを



新たな試みとして「竹刀を小さく振る新聞紙切り」の感触を確かめた

令和元年度中学校武道授業(剣道)指導法研究事業(主催Ⅱ日本武道館・全日本剣道連盟・日本武道協議会、後援Ⅱスポーツ庁)が7月5日～7日に日本武道館研修センターで開催された。

今年度の研究事業では、令和元年度全国剣道指導者研修会の指導ガイドラインの見直しと、現行5ブロックで開催している全国剣道指導者研修会を令和2年度から新たに東西2ブロックに分けてスタートするための準備作業を中心に、検討協議が行われた。

■7月5日

●開講式

記念撮影を行った後、午後2時から開講式が行われた。はじめに主催者を代表して、網代忠宏あじろただひろ全日本剣道連盟常任理事が「中学校武道必修化に伴う全国剣道指導者研修会は今年で10年目を迎え、さらなる飛躍を目指し、令和2年度から新たな形で進めてまいりたいと考えております。

今回は新たなスタートに向けて、施策を考えてまいります。中学校武道必修化は波に乗っております。さらに小学校にも武道必修化を進めていくように、次へのステップに備えていきたいと思います。

続いて、三藤芳生みつふよし日本武道館常任理事・事務局長が「次期学習指導要領では、武道全9種目が並列明記され、さらに今年度、スポーツ庁は外

部指導者を活用した複数種目のモデル実践校の事業化を果たしてくれました。来年度からはこれまでの全国剣道指導者研修会を東西2ブロックに分けて実施する予定です。また3年後には日本武道協議会が設立45周年を迎え、少年少女武道の活性化と人口増、小学校高学年への武道の導入を目的に指導書を5万部刊行し、全国の中学校や道場などに配布することを計画しております。小学校の武道必修化の実現に向けて、効果があがる研究事業となることを期待しております」と挨拶を述べた。

●ガイドライン見直し

開講式終了後、昨年度の全国剣道指導者研修会の担当コマごとに反省と改善点について検討した。

休憩後に各グループで協議した内容を全体で共有し、今年度の指導ガイドラインの変更点を確認した。



指導ガイドラインの見直しを行った



三藤芳生 日本武道館
常任理事・事務局長



網代忠宏
全日本剣道連盟常任理事



基本動作「体さばき」の指導方法について確認

▽「剣道授業における安全・衛生管理」

神崎浩研究者から「授業では技能の上達を考えると、本来の規格よりも軽く短い竹刀を使用し、生徒の成長に合わせることを望ましい。また、衛生面では床に手をつくことがあるので、授業後は手洗いを徹底させる。さらに剣道具の購入・管理は今後の大きな課題であるので、剣道具を安価でリースができるシステムについても紹介する」と報告した。

▽「体罰・暴力によらない指導」

花澤博夫研究者が体罰の実態、マスコミ等の資料や文科省の報告資料・調査結果を説明した。続いて、藤田弘美研究者から「生徒が恐怖を感じるような高圧的な態度も体罰と捉えられることがある。特に武道では直接相手を打つ・投げるという身体接触があるので、その指導の在り方の工夫も必要である」と指導方法について、現役校長という立場から注意点を強調した。

▽音楽を活用した剣道授業

「リズム剣道による授業展開」

実技3の音楽を活用した授業例では佐藤義則研究者から改めてリズム剣道の基本曲を「ネリーブライ」とすることの再確認があった。他にも生徒たちの時代認識や習熟度に合わせたテンポの変化に対応した「365日の紙飛行機」「U・S・A」などの曲を紹介した。「当初は6呼間で振っていたが、8呼間に変更した方が生徒は振りやすい。遅いテンポから早いテンポに段階的に選曲してほしい」と、これまで開催してきた研修会での経験を基に改善点について説明があった。

また、柴田一浩研究者から「小手を打つことを意識させて新聞紙の下半分を小刻みに切る方が、試合で攻防を味わわせるといふ段階になった時に相手を速く打つということに繋がるのではないかと。大きく振りかぶって上から振り下ろす形だと新聞紙が切れない生徒が多いが、この方法だと比較的成功する生徒が多い」と報告があり、研究者全員で新たな試みとして、翌日の実技の中で確認することとなった。

夕食後、軽米満世研究者が全国指導者研修会の効果や課題について、昨年度の参加者の感想を紹介した。

その後、百鬼史訓研究者が剣道授業の現状について、指導現場の授業写真を交え報告し、全員で活発な意見交換がなされ、初日は終了した。





グループ別に12時間授業を想定し、実際に評価の観点を確認



藤田研究者が新学習指導要領における評価の観点について解説



百鬼研究者が最新の竹刀検査用基準器を使用した安全点検について説明した



一斉指導での号令のかけ方について全員で実践した

7月6日

●実践研究

▽「剣道授業における評価」

午前は、藤田研究者がパワーポイントを用いて新学習指導要領の変更点を説明した。その後、佐賀県中学校剣道授業の映像資料を全員で視聴した。引き続き、3人1組に分かれて、12時間の授業時間を想定した知識、技能、思考力・判断力・表現力等学びに向かう力・人間性の観点別に指導内容と、その評価について検討した。

▽「剣道授業における楽しい動機づけ」

柴田研究者から提案のあった新聞紙の下半分を小さな振りで切るという体験をさせた後、大きく振りかぶって新聞紙を切り裂く、という流れに生徒が楽しめることと、技術習得の要素が含まれていることに好感触を得た。

▽「木刀による剣道基本技稽古法」

午後は、宮原昇治研究者を中心に「木刀による剣道基本技稽古法」の指導並びに発声方法について、実技

を交えながら検討した。

網代研究者からは「剣道を専門としない教員が一斉指導で授業を行う場合には、まず教員自身が動作をしっかり覚えてもらうことが大切。その上で現場でやりやすい指導方法で授業を展開してもらいたい。講師を担当する方には、最初から教え切らず、材料を提示するつもりで指導にあたって欲しい」との発言があった。

▽「基本となる技の段階的な指導（相手の動きに応じた基本動作）」

続いて、軽米研究者が中心となり「基本となる技の段階的な指導（相手の動きに応じた基本動作）」について、指導ガイドラインに沿った文言の確認と内容並びに指導方法の共通理解を図った。

▽「剣道具・竹刀の安全」

その後は、百鬼研究者が全日本剣道連盟のホームページで公開された竹刀検査用基準器の説明の他、「剣道具・竹刀の安全」について解説をした。事故予防策として、安全管理の徹底が非常に重要で、竹刀・剣道具の安全管理と事前の点検作業や熱中症の予防、衛生管理の必要性について再確認を行った。

好評発売中

小笠原 清忠

(弓馬術礼法小笠原教場
三十一世宗家) 著

武道の礼法

相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が
直々に指南する、武道関係者必読の一書。



四六判・上製・278頁

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>



佐藤研究者を中心に研修会の
日程表のコマ割りを検討

■ 7月7日

最終日は、令和2年度以降の全国
剣道指導者研修会に向けて、日程表

のコマ割りを検討協議し、実施要項
案に加筆・修正を行い、次年度以降
の変更内容等の共通認識を図った。

● 閉講式

まず、稲川泰弘いながわ やすひろ全日本剣道連盟副

会長が主催者挨拶で「現在、剣道界
では小学校で剣道を始め、中学校で
辞めてしまう子どもが多い。これを
何とか解決していきたい。また、次
年度以降、全国剣道指導者研修会も
新たな形となるので連盟としても最
大限努力していきたい」と述べた。
最後に、中島昭博日本武道館振興
課長が主催者挨拶を行い、3日間の
全日程を終了した。

令和元年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業 研究者名簿一覧

▷ 研究者

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 網代忠宏 | 全日本剣道連盟常任理事
全日本学校剣道連盟専務理事 |
| 百鬼史訓 | 全日本剣道連盟常任理事
東京農工大学名誉教授 |
| 佐藤義則 | 全日本学校剣道連盟常任理事 |
| 軽米満世 | 全日本剣道連盟常任理事
袖ヶ浦市立総合教育センター教育相談員 |
| 花澤博夫 | 大阪体育大学非常勤講師
大阪学校剣道連盟副会長 |
| 宮原昇治 | 全日本学校剣道連盟理事
静岡県剣道連盟顧問 |
| 仮屋達彦 | 全日本学校剣道連盟理事
滋賀県剣道連盟副会長 |
| 神崎 浩 | 大阪体育大学体育学部教授 |
| 山神眞一 | 香川大学学長特別補佐・教育学部教授 |
| 有田祐二 | 筑波大学体育系准教授 |
| 山田博子 | 栃木県教育委員会副主幹 |
| 井上 孝 | 香川県まんのう町学校支援員 |
| 藤田弘美 | 行橋市立今元小学校校長 |
| 柴田一浩 | 流通経済大学教授 |

▷ 事務局（日本武道館）

- | | |
|------|-----------|
| 中島昭博 | 振興部振興課長 |
| 末吉 潤 | 振興部振興課主任 |
| 鶴麻奈美 | 振興部振興課事務局 |

(順不同)

山神眞一 著

(香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。
現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。
付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・
256頁・DVD付・
本体2400円＋税

目次

第一章 一眼子どもと少年剣道の今を眼る

現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声

第二章 一足少年剣道の足跡とこれから

現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る

第三章 三胆指導者の胆力を求めて

少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意

第四章 四力技の力を学ぶ

剣道のアイズブレイキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの際的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方

第五章 残心

海外での剣道事情／中学校における剣道授業あながき

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

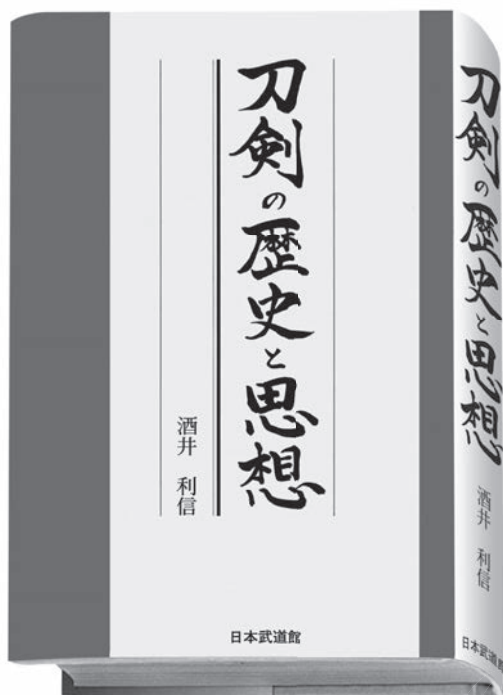
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円十税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

序章	第一章 探求の旅をはじめににあたって
第二章 刀剣の歴史	第二章 刀剣思想の源流
第三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十一章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十二章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第十九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十一章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十二章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第二十九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十一章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十二章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第三十九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十一章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十二章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第四十九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十一章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十二章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第五十九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十一章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十二章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第六十九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十一章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十二章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第七十九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十一章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十二章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第八十九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十一章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十二章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十三章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十四章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十五章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十六章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十七章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十八章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第九十九章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流
第一百章 刀剣思想の源流	第二章 刀剣思想の源流

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。